



## 高齢者も誰でも安全で暮らしやすい バリアフリー性能

高齢者だけでなく、子どももおとなも、だれもが暮らしやすい住まいであることが大切です。

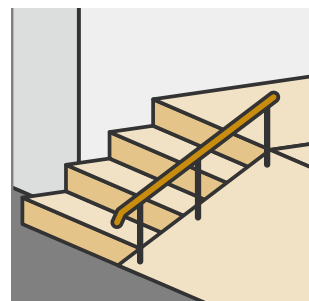
### 移動のしやすさ

- 和室の出入口などの2cm程度の床段差で思わぬ転倒事故をおこすことがあります。室内が全て段差のないフラットな床が安全ですが、段差がある場合は、スロープなどを設けて段差を解消することが大切です。
- 手すりは日常動作を補助し、高齢者や障がい者の自立した生活を支えることができます。玄関など出入口の手すりは靴の着脱が楽に行えます。また、浴室内の手すりは高齢者だけでなく、子どもの浴槽出入りに使えます。
- 外出のしやすさは社会とのつながりを保ち、健康寿命を延ばします。玄関の腰かけベンチや移乗台は誰にとっても便利です。玄関ポーチのスロープは重い荷物を運ぶ際に役立ちます。



### 介助のしやすさ

- トイレは高齢者の寝室に近く、介助者が入れる広さであること、また将来の車椅子使用などを考えて、十分な幅のある引戸であることが大切です。
- 高齢化に伴って生活の場を1階に移動することがあります。間取り変更しやすく、また介護サービス等で介護者の訪問などを受ける場合のことをイメージしておくことが大切です。



## 安心安全な暮らし 防犯性能

安心して暮らすために、安全性に配慮して、防犯性能が高い住まいであることが大切です。

### 開けにくく侵入されにくい 扉・窓・鍵

- ピッキングされにくい玄関錠としたり、錠を2つ設けるダブルロックも有効です。
- 防犯ガラスは窓からの侵入を防ぎ、CPマークが貼ってあると抑止力にもなります。面格子などの障害物を設置することも侵入に手間がかかるため防犯に役立ちます。

防犯性能の高い窓やガラス、鍵などに表示される「CPマーク」



### 周囲からの見通し

- 高い塀や樹木により不審者が隠れることができる物陰などがいないか、敷地周囲を確認しましょう。
- 室外機や物置など上階への足がかりになるものはないか、建物周囲を確認しましょう。

### 不審者対策

- 防犯カメラ、威嚇用フラッシュライト、防犯砂利など、不審者が近づきにくい対応策があります。
- カメラ機能付インターフォンは、室内で訪問者の様子を確認してから対応できるので安心です。

